

# 図書館情報システム



## なぜこの事業を行なっているのですか？

台東区の図書館は、年間約169万人の方が利用しています。また、蔵書数は57万冊を超え、本、CD、DVDなど様々な資料を所蔵しています。

台東区では、中央図書館をはじめ各分館・分室等をネットワークで結んでおり、利用者の貸出・予約情報や、区内にある各館の蔵書などを一体的に管理することで、効率のよい図書館の運営を行なっています。

これらのネットワークをより有効に活用し、利用者にとって一層利用しやすい図書館にするため、新たに中央図書館にICタグシステム（[☞解説①](#)）などを導入し、サービスの充実を図ります。



## どのようなことを行なっていますか？

ICタグシステムやリライトカード（[☞解説②](#)）を導入することで、貸出・返却手続きのセルフ化やカウンターの混雑の解消など、利用者にとってより利用しやすい貸出環境を整備します。

### ● ICタグシステムの導入

従来のバーコードによる蔵書管理からICタグを使用した管理に変更することで、利用者自身が貸出・返却手続きを行なうことができるようになります。

また、バーコードの場合と異なり、一点ずつ資料の情報を読み込む必要がなくなるので、一度に複数の資料の手続きを行なうことが可能になり、資料貸出等における待ち時間の短縮が可能になります。

### ● リライトカードの導入

貸出カードをリライトカードに変更することで、カードに直接、文字を印字することができるようになり、現在借りている資料の種類や冊数、返却日を簡単に確認することができるようになります。

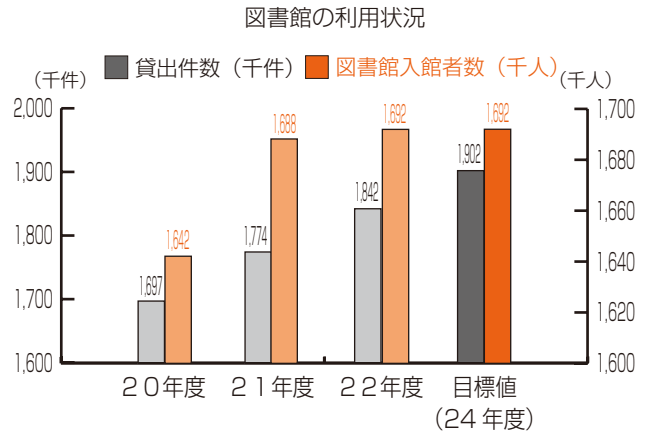
また、リライトカードは貸出記録を何度も上書きすることができるため、レシートが不要になり、紙資源の削減につながります。

## ? 事業の進み具合はどうか？

平成22年度は、一般書、児童書を中心に約57万冊にICタグの貼付を行ないました。

平成23年度は、CD、DVDなどの視聴覚資料を中心に約2万点にICタグの貼付を行ないます。

またICタグシステムと図書館システムとの連携作業を行ない、中央図書館に自動貸出機、自動返却機などのICタグを活用した機器を設置します。



(資料：中央図書館)

## ? 今後はどのように取り組んでいくのですか？

今秋を目途に、中央図書館でのICタグシステムの導入を目指しています。

今後は、この利用結果を踏まえ、分館など他の図書館への自動貸出機などの導入を検討していきます。

また、ICタグシステムの導入にあわせて、レファレンス（☞解説③）等の対面サービスを充実し、より質の高い図書館サービスを提供していきます。

### ■ この事業に関するお問合せは ■

教育委員会（生涯学習推進担当）中央図書館

03-5246-5911

#### 【解説】

##### ① ICタグシステム

情報を記録するICチップ（集積回路）と無線通信用のアンテナを組み合わせた小さなタグ（札）のことを、ICタグと言います。ICタグに登録した情報を管理するネットワークやコンピュータを含めたシステム全体のことを、ICタグシステムと言います。

##### ② リライトカード

インクを使うことなく、券面に表示される情報を繰り返し書き換えることができるカードのことです。中央図書館では、このカードに利用カードとしての機能と貸出情報などを印字するレシートとしての機能を持たせる予定です。

##### ③ レファレンス

「こういったジャンルの本を探しているのですが？」などの簡単な読書相談から、調査・研究などの調べ物に対する参考資料を提示するような専門的なお手伝いなど、図書に関する様々な問い合わせに答えるサービスのことです。